

愛知県感染症情報

AICHI Infectious Diseases Weekly Report

2008年24週(6月2週 6/9~6/15)

(作成) 愛知県感染症情報センター(愛知県衛生研究所内)

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>

E-mail: eiseiken@pref.aichi.lg.jp

連絡先: 052-910-5619 (企画情報部)

今週の内容

トピックス

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、咽頭結膜熱
手足口病、ヘルパンギーナ

病原体検出情報

定点医療機関コメント

溶連菌感染症、感染性胃腸炎(カンピロバクター等)、水痘、手足口病、ヘルパンギーナ等

全数把握感染症発生状況

()内は件数。結核(29)、腸管出血性大腸菌感染症(3)、マラリア(1)、レジオネラ症(1)、アメーバ赤痢(1)、後天性免疫不全症候群(5)、梅毒(1)、麻しん(3)

名古屋市感染症情報 (5月後半/6月前半)

WHO疫学週報抄訳

2008年5月9日(83巻19号)

手足口病;中国の流行、08年5月

ポリオ;世界の状況、野生株ポリオウイルス伝播中断;07-08年

2008年5月16日(83巻20号)

総合的病原体媒介動物統御(蚊対策)に関するWHO見解

ワクチン管理能力改善会議

定点把握感染症報告数(保健所別、年齢別)

百日咳 前週比1.6倍(13人 21人)、半田保健所管内定点あたり1.33人(警報レベル)

「グラフ総覧」は <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.pdf> をご覧ください。

トピックス

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

定点あたり患者報告数は過去5年の同時期では最も多く3.48人、前週比1.0倍(645人 634人)です。警報レベル(4.0人以上)の保健所は瀬戸、津島、師勝、春日井、江南、岡崎市及び豊田市です。

【参考ページ】 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎が流行しています(ネットあいち)

<http://www.pref.aichi.jp/0000015803.html>

咽頭結膜熱

定点あたり患者報告数は0.80人、前週比1.3倍(115人 145人)です。

手足口病 (図1)

定点あたり患者報告数は2.13人、前週比1.6倍(247人 387人)です。

【参考ページ】

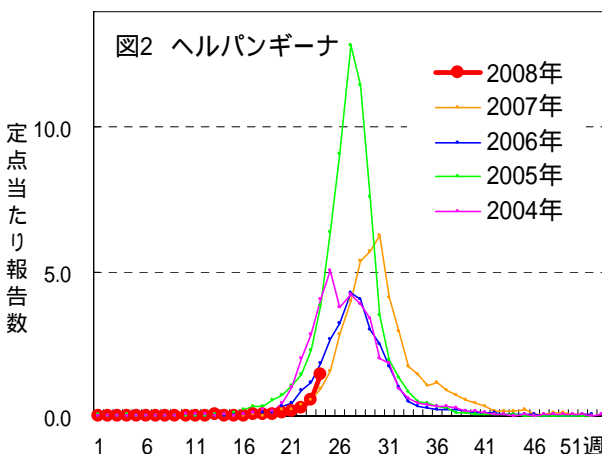
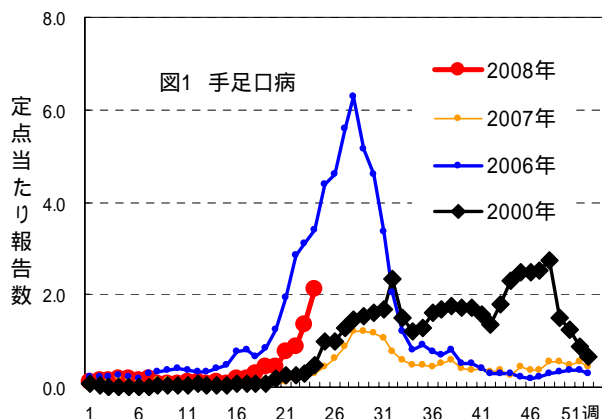
WHO疫学週報抄訳 本誌6ページ

「中国南部で手足口病死亡例が発生」

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/hfmd2008.html>

ヘルパンギーナ(図2)

定点あたり患者報告数は1.42人、前週比2.6倍(98人 258人)です。



インフルエンザは 2007 / 2008 シーズンの検査結果です。

	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	咽頭結膜熱	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	脳炎 脳症	インフルエンザ
患者数	145	20	10	4	2	11	4	183
CV-A2	-	-	4	-	-	-	-	-
CV-A16	-	4	-	-	-	-	-	-
E-6	1	-	-	-	-	-	-	-
E-30	1	-	-	-	-	-	-	-
FluAH1	-	-	-	-	-	-	-	95
FluAH3	-	-	-	-	-	-	-	20
FluB	-	-	-	-	-	-	-	6
RotaA-G1	3	-	-	-	-	-	-	-
RotaA-G3	6	-	-	-	-	-	-	-
RotaA-G9	13	-	-	-	-	-	-	-
NV G	6	-	-	-	-	-	-	-
NV G	19	-	-	-	-	-	-	-
Ad-1	1	-	-	-	-	-	-	-
Ad-2	2	1	-	1	-	-	-	-
Ad-41	1	-	-	-	-	-	-	-
検査中	33	14	4	2	1	8	1	2
陰性	61	2	2	1	1	3	3	60

略:ウイルス名(他の略名)

Ad : アデノウイルス

FluAH1 : A ソ連型インフルエンザウイルス

NV : ノロウイルス

CV : コクサッキーウイルス(Cox.)

FluAH3 : A 香港型インフルエンザウイルス

RotaA : A 群ロタウイルス

E : エコーウイルス

FluB : B 型インフルエンザウイルス

「平成 19 年 疾患別ウイルス検出情報」は以下のページをご覧ください

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/prompt.html>

定点医療機関コメント (名古屋市除く)

尾張西部地区

7歳男、2歳男 カンピロバクター腸炎

【一宮市 あさのこどもクリニック】

24歳女 成人の百日咳

【一宮市 後藤小児科医院】

マイコプラズマ感染症 7名

【一宮市 城後小児科】

1歳女 サルモネラ spp. O8群による感染性胃腸炎

【稲沢市 野村整形外科】

溶連菌感染症、感染性胃腸炎の流行続いています。

手足口病、ヘルパンギーナ増加してきました。

【江南市 みやぐちこどもクリニック】

水痘多発しています。

クループ散発。

手足口病、溶連菌続発。

ヘルパンギーナも出てきました。

【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】

23歳女 マイコプラズマ感染症。

アデノウイルス散発中。

溶連菌感染 減少して参りました。

水痘、手足口病散発。

【春日町 丹羽医院】

尾張東部地区

溶連菌感染症は相変わらず多く、ヘルパンギーナ、手足口病、水痘も増えています。

【瀬戸市 津田こどもクリニック】

今週も溶連菌感染症多くみられました。ヘルパンギーナ、手足口病が目立ってきました。

その他、水痘、突発疹等。

【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】

アデノウイルス感染症、水痘が続いています。

【春日井市 春日井市民病院】

溶連菌感染症多数。

感染性胃腸炎多数。

アデノウイルス感染症、水痘、手足口病少々。

【春日井市 朝宮こどもクリニック】

最近当院周辺の保育園で手足口病が流行しています。

胃腸炎は落ち着きつつあるようです。

【春日井市 かちがわこどもクリニック】

インフルエンザの小流行も終息したか。

【小牧市 小牧市民病院】

感染性胃腸炎が続いています。

【小牧市 志水こどもクリニック】

溶連菌がまだ多いようです。

【小牧市 医療法人心正会鈴木小児科】

百日咳47歳女160倍、34歳男320倍、32歳女320倍、29歳女40倍、19歳男40倍、45歳男80倍

【半田市 医療法人林医院】

カンピロバクター腸炎3名

アデノウイルス腸炎2名

無菌性髄膜炎1名

【美浜町 厚生連知多厚生病院】

溶連菌、感染性胃腸炎、水痘散発

【南知多町 医療法人大岩医院】

8歳女病原大腸菌O1VT(-)+カンピロバクター(+)

【半田市 医療法人敬おっかわこどもクリニック】

咽頭結膜熱：アデノ 4歳女

【東海市 東海市民病院】

胃腸カゼばかりです。

【東海市 こいで内科医院】

手足口病が多いです。

アデノウイルス感染症も多いです。(ほとんどが扁桃炎です)

ヘルパンギーナも少しでています。

病原大腸菌O74 8か月女

カンピロバクター 8歳女

【東海市 もしもしこどもクリニック】

手足口病、ヘルパンギーナが増え始めています。

【大府市 まえはらこどもクリニック】

西三河地区

StrepA (+) 9名

咽頭ぬぐい液培養にて溶連菌 (+) 1名

E.coli(O1)(O25) 4歳男

E.coli(O25) 10歳男

E.coli(O126) 6歳男

【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】

異型肺炎 5歳男

【岡崎市 医療法人深田小児科】

アデノ 3歳女、6歳女、4歳女、2歳男、4歳男

ヘルパンギーナが増加してきました。

アデノウイルスによる扁桃炎目立ちます。

【岡崎市 花田こどもクリニック】

6歳女 細菌性腸炎(カンピロバクター感染症)

アデノウイルス感染症、手足口病散見されます。

【岡崎市 竜美ヶ丘小児科】

アデノ(+)6歳女2人、3歳女、7歳女、5歳男2人

10歳女 病原性大腸菌O25(+)VT(-)
カンピロバクター

1歳女 病原性大腸菌O111(+)VT(-)

3歳女 病原性大腸菌O25(+)VT(-)

3歳女 病原性大腸菌O74(+)VT(-)

【岡崎市 にいのみ小児科】

6歳女 病原大腸菌O1

8歳男 病原大腸菌O1

5歳女 病原大腸菌O1

13歳男 病原大腸菌O125

【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】

溶連菌感染症、引き続き目立ちます。

【碧南市 永井小児クリニック】

アデノウイルス感染が増えています。

【刈谷市 まついこどもクリニック】

マイコ気管支炎 14歳、9歳

【刈谷市 田和小児科医院】

溶連菌感染症 10名

カンピロバクター腸炎 2名

【知立市 宮谷クリニック】

手足口病が増えてきました。

【三好町 三好町民病院】

アデノウイルス感染症 3歳男、3歳女、1歳男

病原性大腸菌 8歳女 O74、VT(-)

3歳女 O1、VT(-)

0歳女 O1、VT(-)

1歳女 O18、VT(-)

6歳男 O74、VT(-)

2歳男 O74、VT(-)

1歳女 O1、VT(-)

1歳男、3歳女、8歳女 VT(-)

【幸田町 とみた小児科】

東三河地区

ヘルパンギーナと手足口病の子が時々います。
 【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】
 ヘルパンギーナが増加傾向
 【豊橋市 あずまだこどもクリニック】
 3歳男アデノ扁桃炎
 【豊橋市 医療法人野村小児科】
 水痘6/16 37歳女性発症しました。
 【豊川市 豊川市民病院】

E. coli O18・カンピロバクター11歳女
E. coli O125 3歳女
E. coli O18 2歳男
 カンピロバクター 7歳男
 サルモネラ O9 2歳女
 【豊川市 ささき小児科】
 11歳男 带状疱疹
 【小坂井町 総合青山病院】

全数把握感染症発生状況（愛知県全体・保健所受理週別）6月18日現在

一～三類感染症

<関連リンク> 届出基準 <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokedeki jun071228.pdf>

結核（二類感染症）

報告保健所	24週報告数			2008年累計(1～24週)		
	総数	喀痰塗抹検査 陽性者数再掲	無症状病原体 保有者再掲	総数	喀痰塗抹検査 陽性者数再掲	無症状病原体 保有者再掲
名古屋市(16保健所合計)	8	3	2	355	112	30
豊田市	4	1	3	37	10	11
豊橋市	4	1		38	17	6
岡崎市	4	2	1	37	22	6
一宮	2	1		37	13	
瀬戸				56	22	7
半田	1		1	27	5	9
春日井	3	2	1	45	15	1
豊川				18	9	2
津島				37	9	2
西尾	1			24	11	2
江南	2	1		33	11	1
新城				6	1	1
知多				55	11	19
師勝				21	6	4
衣浦東部				44	10	11
合計	29	11	8	870	284	112

腸管出血性大腸菌感染症（三類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	発病月日	初診月日	診定月日	備考
1	名古屋市	47歳	男	-/-	6/9	6/11	O157、VT1(+)VT2(+) 無症状病原体保有者
2	豊田市	62歳	男	6/2	6/3	6/6	O157、VT1(+)VT2(+)
3	衣浦東部	14歳	女	6/7	6/9	6/13	O111、VT1(+)

四類・五類感染症（全数把握）（推定感染経路、推定感染地域は確定も含む）						
マラリア（四類感染症）						
番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染地域	
1	豊田市	31歳	女	熱帯熱	ギニア	
レジオネラ症（四類感染症）						
番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染地域	
1	西尾	46歳	男	肺炎型	国内	
アメーバ赤痢（五類感染症）						
番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	名古屋市	46歳	男	腸管及び腸管外アメーバ症	性的接触	国内
後天性免疫不全症候群（五類感染症）						
番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	名古屋市	32歳	男	無症候性キャリア	性的接触	国内
2	名古屋市	29歳	男	無症候性キャリア	性的接触	国内
3	名古屋市	63歳	男	A I D S	性的接触	国内
4	名古屋市	33歳	男	無症候性キャリア	性的接触	国内
5	名古屋市	26歳	男	無症候性キャリア	性的接触	国内
梅毒（五類感染症）						
番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	名古屋市	44歳	男	無症候	性的接触	国内
麻しん（五類感染症）						
番号	報告保健所	年齢	性別	予防接種歴	推定感染地域	
1	名古屋市	3歳	男	無	国内	
2	豊田市	1歳10か月	男	有	国内	
3	半田	1歳1か月	女	有	国内	

名古屋市感染症情報（5月後半 / 6月前半） 平成20年6月19日

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

紫陽花（あじさい）の花が満開で花菖蒲（筆者の庭のは派手な肥後花菖蒲ではなくて、つつましい伊勢花菖蒲です）がぼつぼつ咲き、梔子（くちなし）が匂うようになりました。蒸し暑い毎日、お昼過ぎの5時限6時限など学生諸君が眠そうで気の毒です。眠気覚ましに（年寄りの退屈な思い出話にならないよう注意しながら）ハッとするような無駄話をしています。いつも貴重な情報を有難うございます。5月後半・6月前半のまとめをお送りします。

城北病院渡辺先生からは熱発者は少なく、時間外も少ない。溶連菌の咽頭炎の散見が目立ち、マイコプラズマがパラパラ、胃腸炎やRS感染症はほとんどなくなった、第二日赤岩佐先生からは麻疹が1人いた（三重の人から感染したようだ）、ヘルパンギーナ、手足口病もいた。ウイルス性腸炎が目立ち、水痘も目立ち、溶連菌感染症も目立つ、三菱病院入山先生からは感染性胃腸炎7名（病原性大腸菌O18、O25、O1、O6各1名、カンピロ2名、腸管出血性大腸菌O157感染の入院例12歳男児1名）、咽頭アデノウイルス感染症2名（2名入院、1歳と10ヶ月）、気管支炎～肺炎の入院3名（うちマイコ1名）、大同病院水野先生からは外来は比較的落ちついており、アデノウイルス、手足口病が流行中で、今年の手足口病は高熱が出る（EV71?）、入院では肺炎が多くマイコプラズマという訳ではなく、クラミジア・ニューモニエ抗体上昇例があり。当院では感染症の症例が多いことから感染症サーベイランスの定点をやりましょう、とのお手紙・お申し出をいただきました。有難うございました。

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

2008 年 5 月 9 日（83 巻 19 号）<http://www.who.int/wer/2008/wer8319/en/index.html>

手足口病。中国。

08 年 5 月 5 日時点で 4,496 例(死亡 22)のエンテロウイルス 71 型(EV-71)による乳幼児の手足口病の報告あり。22 例の死亡例は全例安徽省阜陽市から報告、神経系肺水腫(neurogenic pulmonary oedema)のような重症合併症で死亡。その後の 5 日間に 1,391 例の入院あり(死亡例なし)、公衆衛生専門家は今後さらに増加、6 - 7 月にピークとなると予想。レトロスペクティブな臨床調査では阜陽市では 3 月から散発していたことが判明。初発患者に関する呼吸器疾患一般検査では結論が出ず、国レベルの専門的検査で EV-71 ウイルス感染を確認。この結果を当局は WHO と香港、台湾当局に報告。中国当局は安徽省阜陽市を対象としてサーベイランス強化、保健医療従事者訓練、環境保健・飲料水管理強化など予防対策活動を開始。個々の衛生キャンペーン(特に手洗い)推進中。EV-71 など非ポリオエンテロウイルス感染症は世界中に分布しており無症状のことが多いが時に集団発生や散発例が報告されている。ワクチンがない現在、予防法は頻回の手洗いとか土で汚れた衣類や皮膚の消毒など古典的な手段だけであり、学級閉鎖を要することもある。旅行や物流の制限の必要はない。最近西太平洋地域の多くの国では小児の手足口病と合併症のサーベイランスが実施されている。WHO の非ポリオウイルス公式情報は<http://www.who.int/mediacentre/factsheets/fs174/en/index>参照。注：本邦では手足口病は 5 類感染症で定点から報告、発生状況は定期的に把握されており、同時に国立感染症研と各地方衛研による感染症サーベイランス事業でウイルスのサーベイランスが継続されている。ちなみに愛知県では EV-71 による手足口病はコクサッキー A16 ウイルスが主体で毎年夏季に流行しているが最近では平成 15 年と 17 年に小児の手足口病からかなり EV-71 が検出されているが EV-71 による重症合併症多発は報告されていない。中国の状況(本当に EV-71 なのか、周囲の調査やウイルス学的解析など)の詳細の記載なし。次報が待たれる。

ポリオ。野生株ポリオウイルス(WPV)伝播の中断進捗。世界の状況。07 年 1 月 - 08 年 4 月。

07 年 2 月、WHO は 07 - 08 年のポリオ根絶努力強化のための担当者(Stakeholders、旗手)会議を招集。本報はその概略である。

(1) OPV 定期接種：ポリオ根絶運動の必須要素。乳児に対する 3 価経口生ワクチン(tOPV)定期接種率は世界全体で推定 06 年 80%。WHO 地域で差があり東南アジア地域 65%、アフリカ地域 75%、東地中海地域 86%、南北米地域・欧州地域・西太平洋地域それぞれ 93%以上であり、ポリオ常在 4 カ国ではアフガニスタン 77%、インド 58%、ナイジェリア 61%、パキスタン 83%であり、ナイジェリア北部や北部インドのビハール・ウタルプラデシュ州など流行地区では 40%未満の低さである。

(2) 定期外補充予防接種運動(Supplementary Immunization Activities, SIA): 07 年、27 カ国で 164 回の SIA 実施(60 回の全国一斉接種日、86 回の地方接種日、18 回の重点接種日)、5 歳未満小児 4 億人に接種。WPV1 伝播中断のために導入された 1 型単味ワクチン(mOPV1)接種が 07 年 SIA の 52%を占めていた。164 回のうち 76 回が常在 4 カ国(インド 25 回、パキスタン 19 回、16 回がアフガニスタンとナイジェリア)、56 回が 07 年あるいはそれ以前のポリオ輸入国、32 回が過去に流行のあった国で実施されている。SIA を良質にするための努力が常在 4 カ国で継続、ナイジェリアでは予防接種デーの他の定期接種ワクチンや殺虫剤浸透蚊帳、駆虫剤普及活動に組み合わせ、インドではポリオリスクの高い州で SIA 徹底(OPV 接種ゼロ児は 1%未満)、アフガニスタンとパキスタンでは両国国境をはさむ地域で SIA を同時に実施、反政府活動・部族支配地区における SIA が可能となった(まだ実施率は一般地区に比し低いが)。

(3) 急性弛緩性麻痺(AFP)サーベイランスの感度：感度良好であるための指標として WHO は非野生株ポリオウイルスによる AFP 報告例数が 15 歳未満小児人口 10 万当り 10 例<であること、ウイルス検査に適切な便材料が 80%<の AFP 患者から検査室に適切に搬入され、検査されること、の二点をあげているが、世界的に常在国、非常在の輸入国、非感染国共にこの二点に合格していた(国別、地域別の表あり)。

(4) 世界ポリオ検査室ネットワーク：07年、WHOは世界ポリオウイルス検査室ネットワーク参加145検査室の98%を認定。これら検査室はAFP患者の便材料157,000検体を検査。検査報告までに要する日数は短縮され、分離ポリオウイルスの野生株かワクチン株かの型内鑑別が07年には69%の検査室で可能となった。

(5) 野生株ポリオ発生数：08年4月30日までの報告で、07年発病野生株ポリオ患者数は世界全体で1,310例であり、06年の1,997例の34%減であった(地域別、国別一覧表あり)。野生株ポリオに襲われた地区の数は06年の463地区が07年には342地区(26%減)であった(地図あり)。各国・地区の状況は インド：mOPV1導入でWPV1ポリオ患者減少。WPV3が増加(06年28例が07年787例) ウタルプラデシュ州からビハール州に拡大。 ナイジェリア：WPV1、WPV3共に全体としては減少しているが、これまで報告のなかった南部から報告がみられるようになった。 アフガニスタンとパキスタン：パキスタンではアフガニスタンとの国境地帯2地区と南部内陸部から報告あり。アフガニスタンでは07年末になって治安不良であった地区でもSIAが可能となったが東部地区と南部で報告あり。 その他諸国：輸入例とその続発例。07年にはアンゴラ(コンゴ共和国から輸入) コンゴ共和国(インド由来)、チャドとニジェール(ナイジェリア由来)、ネパール(インド由来のWPV3、08年も)、ミャンマー(WPV1)、スーダン(チャド由来)、エチオピア(08年、スーダン由来)、いずれも内戦の難民や移住者が目立っている。

2008年5月16日(83巻20号) <http://www.who.int/wer/2008/wer8320/en/index.html>

総合的病原体媒介動物統御(Integrated Vector Management, IVM)に関するWHO公式見解。

(1) 緒言：蚊や他の媒介昆虫が媒介する疾患は世界の熱帯・亜熱帯の貧困国にとって致命的な負担(critical burden)となっており、なかでもマラリアが最も重要で媒介蚊対策がポイントであり、他のいくつかの蚊媒介疾患で重要な疾患もWHOの「軽視された熱帯病(neglected tropical disease)」世界対抗作戦計画2008-15にもIVMが重要なポイントとしてあげられている。媒介動物(ベクター)制御(コントロール)作戦により病原体伝播が中断され、発症が減少する。対策として優先順位は高い。ただ、ベクターコントロールには困難な点も多く、多面的作業が必要である。本報はWHOのIVMに関する公式見解である。

(2) IVMとは何か：ベクターコントロールにおける最適な資源利用のための合理的な方針決定プロセス。IVM履行には制度整備、規制の枠組み、方針決定基準、行政の基本的レベルから応用できる手法が要求され、各部門の共同作業を支える制度整備技術が必要となる。重要な属性として下記がある：経費効率。最低の出費で最高の効果を得ること。多部門の共同作業。例えば灌漑水路整備がベクター環境を変化させ、新しい交通手段によるベクター分布の変化、人口移動による感受性者の増加と病原体・ベクターの持ち込みが問題となる。持ち上げ方式：トップダウンではなくて地域特性に応じた持ち上げ方式が重要である。上記を考慮した方針決定。決定基準を明確にすること。持続性：現在の世代から新技術を導入し、次世代の将来に引き継がれるIVMであること。

(3) IVMへのニーズ増加：増加の理由としてIVMは各集団の健康増進計画に關与する、IVMは健康増進活動達成に寄与する、合理的VCM(vector control management)は殺虫剤などによる環境汚染を低下する、殺虫剤購入、備蓄、開発、薬剤耐性発生の問題も適切なVCMによる対処が重要である、などがあげられる。

(4) 結語：国際協力によるVCM計画履行能力の強化が強調されている。

ワクチン規制能力改善(improving vaccine regulatory capacity)に関する会議。08年12月。

WHO本部。WHOは07年12月17-19日、専門家会議を召集、この10年間(97-07年)、WHO予防接種・ワクチン・生物製剤部門が運営しているワクチン規制能力改善プロジェクトの進捗状況が検討された。過去10年間、86カ国のワクチン規制のシステムが見直され、国によってはWHOの代表が10回以上の訪問調査を実施。96年以降ワクチン品質管理に関するWHO訓練ネットワークが1,000名以上の技術者を訓練し、こうした経験をもとに各国のワクチン規制を評価する方式、文書が作られ、400名をこえる専門家が評価実施、その結果でデータベースを完成した。このプロジェクトは国家ワクチン規制強化を倍増している(加盟193カ国の国家ワクチン規制機能状況のグラフあり)。ワクチン規制強化プロジェクトのテーマとして下記5項目があげられている：新規専門家養成。ワクチンと薬剤の国レベルの管理基準とWHOの国際基準の調和。制度の発表計画。WHO各地

域事務所強化。 コンピューター化されたこれまでの膨大なデータの集積・解析。WHO の各国規制担当者評価プロセスは評価担当者の質に左右される。今回の会議は評価システムの質を維持するため評価担当者の相互評価を提言している。一般的には評価者の対応は良好であった。評価チームのチームリーダーは WHO スタッフがあたっており、各国の評価には同一基準が用いられている。また、今回の規制評価は国際評価 ISO システムとは別であり混同されないよう注意された。会議参加者は WHO 評価法改定に関連する事項を検討、ワーキンググループ発足、WHO 評価の予算的裏付けとか評価者のガイドライン作成などが提言された。また、会議参加者はこの評価者選定を標準化して行い、改正できること、国によっては明確な理由があれば辞退できることを提言している。

愛知県感染症情報

2008年24週(2008年6月9日～2008年6月15日)

愛知県衛生研究所

	定点数					RSウイルス感染症	インフルエンザ*	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)
	インフルエンザ	小児科	眼科	STD	基幹																		
愛知県 (名古屋市を含む)	195	182	35	52	17	2	16	145	634	963	362	387	15	153	21	258	84	0	6	0	0	7	3
総数 (名古屋市は除く)	125	112	24	37	12	2	14	87	489	690	288	275	11	121	13	214	60	0	4	0	0	4	0
名古屋	70	70	11	15	5		2	58	145	273	74	112	4	32	8	44	24		2			3	3
尾張東部	瀬戸	9	9	2	3	1	1	10	105	34	16	19		8		25	3						
海部津島	津島	7	7	2	2	1		6	28	116	28	10	5	12		8	5					2	
尾張中部	師勝	4	4	1	1				20	4	4	6	1				1						
尾張西部	一宮	16	12	3	4	1		4	27	39	22	30	1	13	2	9	7		1				
尾張北部	春日井	9	9	2	3	1		2	16	77	20	26	4	14	2	11	1						
	江南	6	6	1	2			3	27	41	38	19		7		16	2		2				
知多半島	半田	6	6	1	2	1		2	15	38	6	3		4	8	35	4						
	知多	7	7	2	2			10	6	13	25	30		7		6							
西三河南部	岡崎市	11	7	2	2	1		8	45	24	22	17		16		16	15						
	衣浦東部	13	13	2	4	1		2	23	50	42	62		10		21	14		1				
	西尾	5	5	1	2	1		1	9	27	13	6		5		10	1						
西三河北部	豊田市	9	9	2	4	1		2	47	38	31	24		9	1	31	1					1	
東三河南部	豊橋市	12	8	2	4	1		4	13	63	15	19		10		12	2					1	
	豊川	9	8	1	2	1		2	12	97	6	4		6		14	4						
東三河北部	新城	2	2			1			1														

*鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く

愛知県感染症情報

2008年24週(2008年6月9日～2008年6月15日)

愛知県衛生研究所

年齢階層 (名古屋市を除く)	RSウイルス感染症	インフルエンザ*	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)
計	2	14	87	489	690	288	275	11	121	13	214	60	0	4	0	0	4	0
～6ヶ月	1			1	1	4	1		4									
～12ヶ月	1		3	2	31	13	5		54	1	10							
0歳																		
1歳		3	9	18	74	47	44	1	58		58	4						
2歳			12	28	53	45	55		3		43	5						
3歳		1	23	61	72	58	52	1	2		51	10						
4歳			12	89	84	55	51	3		1	31	19						
5歳			12	79	51	37	36	1			9	5						
6歳			7	62	43	10	12	4		1	6	5						
7歳		2	5	38	44	9	7			1	1	6						
8歳		2	1	32	41	2	6	1			3	1						
9歳			2	22	32	1	1				1							
5歳～9歳																	4	
10歳～14歳		2	1	33	55	5	4			1	1	4						
15歳～19歳				2	13	1				1								
20歳～				22	96	1	1			7		1						
20歳～29歳		1												1				
30歳～39歳		1												2				
40歳～49歳																		
50歳～59歳																		
60歳～69歳		1												1				
70歳～																		
70歳～79歳																		
80歳以上		1																

*鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く